

## 第2回西区まちづくり懇話会 議事録（要旨）

I 日時：平成28年9月8日（木）午後7時～9時

II 場所：西区役所3階健康センターホール

III 出席委員（全15名）

永松会長、河村副会長、塚本委員、岩本委員、上野委員、中村委員、下田委員、  
末次委員、子出藤委員、柿本委員、内藤委員、林田委員、益田委員、大森委員、  
江藤委員、

IV 西区長挨拶

（白石区長）開会にあたり一言申し上げる。お忙しい中にご出席いただき誠にありがとうございます。震災から5ヶ月が過ぎようとし、ずいぶん落ち着いてきたのではないかと感じていたが、昨日震度5弱や震度4の余震が発生、加えて台風の影響も懸念された。西区としては、災害対策には万全を期す体制で対応したところ。

本来のまちづくり事業については、前回、今年度16事業を震災の影響から11事業に縮小し実施する旨、ご報告させていただいた。まちづくりについては、担当職員が地域に出向き実施に向けた話を進めている。

中でも最大事業である西区フェスタについては、前回、テーマや内容についてご意見を賜り、本日は実施計画案を作成したのでこれについてご協議いただきたい。

本日2点目の議題として、次年度のまちづくり事業案についても皆様方からご意見を頂戴したい。熊本地震の影響で本市の財政が非常に逼迫している。今年度も含め、事業の縮小やゼロベースでの見直しの指示が出ているので、予算編成にも影響が出てくるだろうが、本日はさて置き、皆様の事業に対するご意見をたくさん頂戴し計画に反映していきたい。どうぞよろしく申し上げます。

V 議事要旨

1 議事 <進行：永松会長>

(1) 西区フェスタについて 資料1、2

（永松会長）前回は、西区フェスタのテーマと内容の考え方について意見を出してもらったところ、テーマは「健康と復興」がよいということになり、内容についてもたくさんの意見が出された。例えば、西区の元気や震災の感謝を伝えるような場になればいい、防災や漱石俳句かるたについて、皆で楽しんで学べるようなイベントがあるといい、地元農家の顔の見える農産物販売ができると良い、これまでのフェスタは地域の参加が少なかったので、地域参加をどう促すか等。

これらを踏まえて、事務局で実施計画案を検討されたので説明をお願いします。

・西区フェスタ実施計画案（資料 1）、フェスタへの地域の参加について（資料 2）を説明（総務企画課長）

（永松会長）西区フェスタ実施計画案について、皆さんで議論いただきたいことは、地域が行う体験型のブースを新たに設けることとしてよいか、資料 1 の内容で企画コンペを行ってよいかの 2 点である。まずは、資料 2 の体験型の出展についてであるが、ご意見をいただきたい。

（岩本委員）体験型の出展は、地域が持っているかどうかで限定されると思う。凧作りができる校区もあれば、うちではどんどやをするので模型でも持ってきたほうがよいのかと考えている。

（永松会長）今日は、具体的な内容までを決めるということではなく、体験型のブースの設置が可能かどうかを決めていきたい。その点から意見をいただきたい。

（塚本委員）私は体験型は非常によいと思う。うちの地域では、竹馬、竹とんぼ、凧作りなどができる達人がいるので、子ども達に好評である。ただ、西区全体では多数出るだろうから、輪番制にすると継続してできると思う。西区は材料も人材も豊富だと思うので是非やっていただきたい。

（林田委員）今年度のワークキッズ（職業体験）が中止になっているので、西区フェスタで少しできるとよいと思う。

（柿本委員）今の意見に賛成で、竹とんぼ作りなど伝承文化の遊びもよいが、AI（人工知能）時代にどう取り組むかという点から、パルロやベッパー君（コミュニケーション系ロボット）と子どもをはじめ高齢者が話すというような体験も必要ではないか。伝承遊びについては、復活させるということも大事だが、飽いたという声もたくさんある。

（江藤委員）体験型というのは賛成。IT 系もよいし伝承遊びもよいと思うが、伝承遊びについては、校区で区切るよりも伝承遊びのコーナーに何人もの達人がいるというやり方がよいのではないか。

（岩本委員）体験型は参加者が喜ぶ。古町幼稚園では折り紙が好評である。

（塚本委員）竹の他、水鉄砲も喜ばれている。現代的な遊びもよいが、いろんな遊びに触れさせることも大事だと思う。

（永松会長）二十数年前だが子どもと金峰山少年の家に行ったときに、竹とんぼ、水鉄砲、竹箆を作ったが、今も使っている。作って持って帰れるものはよい。

(内藤委員) 体験型のメリットは来場者が会場に滞留するという点にある。さらに、体験型で竹箸を作るとして、その箸を食ブースに持っていくと割引があるなどブース間の連動を作ると賑わいも生まれる。子どもは、意外と単純な物作りに熱中するので、子ども文化会館でのプラ板作り(プラスチック板に絵を描いて加熱)も行列ができるほど賑わった。

(柿本委員) 今は、マスコミ、学校、イベント関係、色んな体験学習の機会があるため、西区でないとやれない独特のメニューがいいのではないと思う。

(永松委員) 地域には色んな名人がおられるだろうから、今日はたくさんのアイデアを出してもらいたい。

(柿本委員) 西区は特に地震が多いようだ。新聞での情報だが、子どもを対象として地震のメカニズムを知る講座はとても人気とか。同様の講座を西区の气象台にやってもらうのは面白いのではないか。

(河村副会長) 熊大の地質学とか地震のメカニズムを専門にしている先生にお願いすれば、来ていただくことも可能かと思う。

(益田委員) 体験型については賛成。テーマに沿ってやることもひとつだが、楽しみが何年か継続させる遊びがあってもよいと思う。例えば、毎年、紙飛行機の飛ばし合いをするみたいな。また、世帯間の交流や家庭では普段できないような体験があると集客効果もあり面白いと思う。

(岩本委員) キャンプではよく細工体験がある。そのような体験があるとよい。地元には竹や木が豊富なので、そういうものを利用するとよい。簡単にできて、記念に残るものは手広くやれると思う。

(永松会長) 体験型のブースを今回設けるということでよろしいか。

(異議なし)

(永松会長) ブースへの参加者の募集方法については事務局で整理していただくこととなるが、資料2の参加条件について、「フェスタのテーマ、目的に沿ったもの」という要件については問題ないと思うが、他に追加すべき要件などないか。

(河村副会長) 柿本委員の意見にあったように西区の独自性というか、西区らしさのようなものが出てくるといいと思う。

(永松会長) 事務局に確認だが、要件は、テーマ(健康と復興)となお且つ目的にも合致していなければならないという意味か。

(総務企画課長) 広義なもので、どれかに沿ってれば良いと捉えていただきたい。

(永松会長) そうであれば、たいていのことは可能になるだろう。今後は、出展基準に該当する体験ブースを検討していくが、出展者はどのようにして選定していくのか。

(総務企画課長) 地域から出展いただきたいという考えのもと、5つのエリアの委員からご推薦いただける方がいらっしゃればと考えている。

(永松会長) 選定方法について、校区ごとなのか種別なのかなど詳細は事務局で調整していただくということでよいか。また、フェスタ日程は3月5日に変更ということによろしいか。

(異議なし)

(永松会長) イベント内容等についても区役所提案のとおりでよろしいか。なにかご意見はないか。

(中村委員) 体験エリアで、隣接する環境工場の見学ツアーを取り入れてはどうか。

(総務企画課長) 昨年リニューアルオープンした環境工場とは、連携したイベントができないか調整中であり、もしかすると工場見学ツアー等も同時開催できるかもしれない。

(永松会長) 他にご意見はないか。なければ、フェスタ内容についてはこの実施計画案をもとに企画コンペを進めていただく。

次に、広報等について、何かご意見をいただきたい。広報については、なかなか広がらないという指摘があっているようだが。

(林田委員) 事務局案で町内回覧板とあるが、読まない人も多い。各地域には公民館長がいるので、可能であれば公民館で町内放送をしてはどうか。

(柿本委員) アクセスのない人達をどのようにフェスタに来てもらうかが大事。熊本市はアクセスに対する支援が弱いと思う。来たくても来られない人に対する支援を西区の特徴にしては。

(河村副会長) イベントの仕様にマイクロバスを導入するなどアクセス支援を入れることはできるか。あるいは、地区ごとに乗り合わせて来てもらう方法などできればよい。

(柿本委員) 例えば、デイサービスを利用される方たちを施設からフェスタへバス等で送迎するという方法なら可能ではないか。

(永松会長) マイクロバスの導入は、予算的に困難だろう。また、デイサービス利用の方は、フェスタ会場内でも支援が必要になるかと思うが、人的サポートが施設でカバーできるのかという問題はあるのではないか。

(柿本委員) 要介護 1・2の方であれば自分で動くことも可能。総合事業も全国的に始まっており、行政もやる気を出せば実現できると思う。

(林田委員) 時間帯を決めておかないとお疲れになると思う。

(柿本委員) 「〇〇まで来てください」という熊本市のやり方では、行きたくても出来ない人たちが出てくるので見直すべきだ。

(益田委員) 第 1 回目ではポスターの出来上がりが遅かった。出展内容を早く決めて作成できれば掲示板等への掲載期間が長くなり広報の効果も高まるので、早めの段取りが必要。

(大森委員) ポスターは、スーパーなどに貼るのも効果的ではないか。

(上野委員) 自治会では、町内回覧版が重要な広報手段である。毎月 25 日までに届いた物は翌月に回覧する。1 月、2 月に回覧するならば、12 月 25 日までに町内に届く必要があるため、その前までにポスター、チラシが出来上がらないといけない。そのためには、何をするとか内容を早く決めておかないと間に合わない。

(永松会長) 企画コンペで 11 月には大体のイベント内容が決まり、体験ブースで何をするかを決めてしまえばポスターの作成は可能だろう。回覧版、ポスター等の作成時期は、事務局で考慮のうえ調整していただきたい。

柿本委員の意見であった「行きたくても来れない」方への対応については、地区によっても異なり、中々難しい面があると思われるが。

(河村副会長) 総合事業の話もあったが、熊本市は平成 29 年度からの開始なので難しい面があるかもしれないが、高齢者サロンとか「ささえりあ」の事業の一環として西区フェスタに参加するという形であれば、実現可能なのかも。

(塚本委員) 障がい者や高齢者の方は、遠くまで出かけるのは大変なので、地元の校区のイベントなどに参加されている。元気な人はここまで来られるが、そうでない方はもっと違うところで努力すべきではないか。

(河村副会長) ある程度、自立的に動ける人が前提であると思う。「ささえりあ」が関与している人た

ちは割と自分で動ける人が多いので、フェスタに参加したいと思う方も多いのかもしれない。そういったところに働きかけると、協力いただけることもあるかもしれない。

(永松会長) 事務局の方で一度「ささえりあ」など施設等の状況を確認していただき、来たい人を可能かどうか検討していただきたい。

(益田委員) 受け皿の準備も必要なので、受入れ体制の準備を整えてから施設等には案内するのがいいのでは。

(永松会長) 受入れをする上で必要となる施設面での課題などを事務局で整理をして、次回、報告していただきたい。

では、議題 2「来年度のまちづくり事業」について、事務局から説明をお願いします。

## (2) 平成 29 年度西区まちづくり事業について 資料 3、4

### ・平成 29 年度西区まちづくり事業について説明 (総務企画課)

(永松会長) 報告であったとおり、災害復旧に予算が必要な状況である。緊急財政期ということで既存事業の見直しが必要となるが、優先順位からいくと政策的事業が対象になりやすく大幅なカットをすることが考えられる。そこも踏まえて来年度事業に意見や提案はないか。

(下田委員) まちづくり事業は、いかに地域内を盛り上げていくかが基本だと思う。河内では実行委員会で事業に取り組んでいる。今は、子育て世代に特化した取り組みとして、河内に嫁いで来た若いお母さん達の出産や子育てなどの悩みについて継続的に話を聞きながら子ども増やすための環境作りに取り組んでいる。まちづくり事業もそういった点を考慮して行けたらいいと思う。

(末次委員) 根本的なことだが、平成 29 年度のまちづくり事業は数が多い気がする。事業に関わるマンパワーとコストが分散化しているので、事務局で各事業に優先順位を付けて見直すいい機会だと思う。

(永松会長) どうしても、各地域に目配りすると予算が小額化していく、ある程度、予算が決まれば緊急期間中でも小額でも全ての事業を実施するのか、優先順位を決めて実施するのかは、今後、検討が必要になると思う。

(子出藤委員) 平成 29 年 4 月に小島小学校と松尾 (東、西、北) 3 校の統廃合が決まっている。ここまで 2 年がかりで地域側と PTA 側で学務課と協議をして来た。今まで、各校区で行ってきた事が

ひとつになることで、自分達の地区から子どもが居なくなり過疎化が進むのではないかと、廃校になった校舎をどう利用していくのかなど課題が多い。ぜひ、まちづくりの一環として事業の中で取り組めないか。

(永松会長) 統廃合については、全国的に校舎の再利用など問題解決に成功したところもある一方で、手付かずになっているところもある。この会の中で情報やアイデアなどあれば子出藤委員に連絡して欲しい。

(河村副会長) 末次委員も空き家の利活用に取り組んでいる中で、何か情報かアイデアはないか。

(末次委員) 学校は地域のいろんな記憶が蓄積された宝なので、地域で利用できる空間にした方がいい。

(河村副会長) 現在、地域と学校が別々に話をしているということだが、一緒に話をする場はあるのか。

(子出藤委員) 一緒に話をする場があるが、それぞれの言い分があり、話が進まない状況である。

(河村副会長) その場合、ここで出た意見を活かせるような場があるのか。

(子出藤委員) 政令市になって初めての統合になる。今後は、芳野小や中緑などの統合が控えている。廃校になる地域が、どのように活性化していくのか、まちづくりを協議する場で話をしたいと思っていた。全国の事例やアイデアを持って来て頂いているが、話が進んでないのが現状である。

(永松会長) 簡単には行かない問題で、この問題に取り組んでいる人が居たり居なかったり、無くなる側と受け入れる側の温度差もある。統廃合をする上では重要な問題なので、廃校舎の活用方法について何かあれば提案して欲しい。

(柿本委員) これは、全国の政令指定都市でも発展する区と寂れていく区があり問題になっていることなので、出来れば規模が同じくらいで成功例があるところに実際に視察に行けたらと思う。以前、まちづくり講演会で藻谷浩介さんに来ていただいている経緯もあるので、本庁の所管課も含めて検討して、地元で情報提供できるような取り組みをして欲しい。

(まちづくり推進課) 昨年度のまちづくり活性化事業の中で、皆で考えようと廃校を利用したレストランや自然を活用したアスレチックなどの先進地視察に行った。また、松尾 3 校区については計 7 回ワークショップを開催し廃校の利活用について地区の方々と話をしている。地域部会の中でも方向性や位置付けについても検討している状況である。

(永松会長) 市としても、地元の納得を得るために色々な情報を提供し、地元も一緒に考えるという取り組みもやっている。

(大森委員) まちづくり事業の幅が広すぎて、予算が減ってきている中で広く浅くするより、優先順位を付けて、休止や廃止などの見直しが必要な時期に来ていると思う。

(上野委員) 地震で予算が削減されるのは分かるが、この資料-4 をみる限り数字合わせをしている感じがする。予算が減っている事業ばかりで、予算を増やす事業の検討はしてあるのか。地震後であるため、防災関係など予算を増やして取り組むべき項目もあるのではないか。

(総務企画課) 資料-3 の予算は来年度予算では無く、今年度の当初予算から震災のため減額した予算である。

(永松会長) 多くの事業を残しつつ少額でやるのか、優先順位を付けて絞り込んで予算を付けてやるのかの検討は必要で、それについては次回にでもやることになると思う。正直、これまでの懇話会では、要望や色々な分野で取り組みをした方がいいということで優先順位の議論はせずにやって来た。いずれにしろ絞込みは必要と思っている。

(益田委員) 西区フェスタの四百万の予算について、地域からの参加者少ない割に全体の予算からするとかなり高額に思える。校区で行っているスポーツ大会は、多くの参加者があるが小額で実施できている。西区フェスタやスポーツ大会もボランティアを使ってやれば、予算が抑えられるのではないか。事業本数の検討も必要だろうが、効率的な方法の検討も必要。

(岩本委員) 「四季をとおして花のあるまちづくり」とあるが、文字通り一年を通した花の配布が出来ているのか。効果的な予算準備と配布を検討して欲しい。

(永松会長) 予算措置が難しいなら事業名を変更するか、本庁の事業と酷似しているものは見直しをしてもいいのではないか。

(柿本委員) まちづくり事業について優先順位の検討という話があったが、西区では、今、まちづくり支援強化として出張所の再編成もあり、小学校の統廃合もあり、色々な部署で動きが出ている。全体の動きとその影響も含めて事業を検討する必要があるのではないか。

(永松会長) 組織の再編については事務量などを考慮して市全体で検討しているし、学校の統廃合は地区の児童数や通学方法などを検討した中での話である。この懇話会では、再編や統廃合を考慮に入れた議論は難しいかと思う。



(柿本委員) 事業の優先順位を決める場合や統廃合の問題を検討する際の要素として考慮していけたらと思う。

(永松会長) 委員おっしゃるとおり、事業を行う際に俯瞰的に状況を見据えた対応は必要だと思う。

(下田委員) まちづくりの基本的な考えとして、補助金に頼りすぎている感がある。地域は自分たちが作って行く。補助金が貰えたら儲けもんと言う感覚が必要だと思う。自分たちの地域を興していくのだから、自分たちが負担していくのが当然である。それを、行政と協働という形でやっているという意識改革が必要だと思う。

(永松会長) おっしゃるとおりだと思う。確かに、そこまでの組織体制が出来ていないところには、行政が支援をするが、基本的には自分たちの町は自分たちで作るとというのが、地域コミュニティのあり方だと思う。他に意見はないか。

それでは、議題3に入るが、委員の皆様から特にお伝えしたいことがあるか。

### (3) その他

(塚本委員) 上熊本周辺エリアの事業は3月に予定していると思うが、西区フェスタも3月5日開催という事は、上熊本の実行委員会には話をしてあるのか。去年は3月6日頃にウォーキングを開催している。今年は西周り道路の完成と一緒にウォーキングの開催を予定しているので調整が必要だと思う。

(総務企画課) まだ、フェスタの日程は地域に伝えていない。西回り環状道路の完成については土木センターに問い合わせたが年度内に完成するかは11月頃にしか分からないとの回答だった。

(花園総合出張所) 工事は年度内に完成すると情報があつた。3月5日のフェスタについては、後日、各会長に報告する。

(永松会長) その他にはないか。なければ、進行を事務局にお返りする。

## VI 連絡事項

(森区民部長) 長時間に渡り熱心なご審議をいただきありがとうございました。区長の挨拶でもあった様に、まだ余震も続き、台風も来る中で、私たちも西区のためにしっかりやっていかなければならないと考えている。現在、市議会も開催されており市長の答弁からも震災からの早期復旧、そして安全安心な熊本の再生と創造に全力で取り組むことを表明されたところ。そういった中で、西区で私たちに何が出来るか改めて考えながら懇話会の皆さまと共に進めていけたらと思う。本日は本当にありがとうございました。

閉 会